

令和6年度学校給食用牛乳供給円滑化推進事業のうち
学校給食用牛乳供給推進会議の実施結果
(関東農政局)

項目	茨城県		栃木県	群馬県	
(1)会議等の名称	学校給食用牛乳供給推進会議	HACCPに関する衛生講習会	栃木県学校給食用牛乳供給推進協議会	学校給食用牛乳供給事業計画策定会議	学校給食用牛乳供給推進会議
(2)日時	令和7年3月5日 14:00～	令和7年3月5日 15:00～	令和7年2月6日 10:30～	令和6年5月8日15:00～15:40	令和6年6月11日10:00～12:50
(3)場所	茨城県畜産会館	茨城県畜産会館	栃木県畜産会館	群馬県勤労福祉センター	榛名酪農業協同組合連合会
(4)参加機関と人数	県畜産課、県保健体育課 県学校給食会 県学校栄養士協議会 県酪農業協同組合連合会 県PTA連絡協議会 県乳業協会 県牛乳協同組合 計9名	県畜産課、県保健体育課 県学校給食会 県学校栄養士協議会 県酪農業協同組合連合会 県PTA連絡協議会 県乳業協会、県牛乳協同組合 牛乳供給事業者 計11名	県畜産振興課 県教育委員会 県学校給食会 牛乳供給事業者 県牛乳普及協会 計15名	県米麦畜産課 県牛乳協会 県牛乳事業協同組合 牛乳供給事業者 県学校牛乳協会 計9名	県米麦畜産課、県教育委員会、県PTA連合会、県学校栄養士会、県学校給食会、県牛乳販売農業協同組合連合会、県牛乳協会、県牛乳事業協同組合、牛乳供給事業者、県学校牛乳協会 計18名
(5)議題	・令和6年度事業報告 ・令和7年度事業内容	・講師派遣事業及び最近の情勢 ・近年の品質トラブルに基づいた衛生管理のポイント	・令和6年度事業報告 ・令和7年度事業内容	・令和5年度学校給食用牛乳供給事業の実績概要 ・令和6年度学校給食用牛乳供給事業実施計画及び安定需要確保対策事業等の補助金の取り扱い	・学校給食用牛乳供給事業の概要 ・令和5年度学校給食用牛乳供給事業実施状況 ・令和6年度学校給食用牛乳供給事業実施計画 ・牛乳工場の視察
(6)概要	・県学校給食会が受発注オンラインシステムを構築する企画があったが、取り扱う商品数が多く、発注者が商品を探しきれないなどの問題があり中止。メールまたはFAXでの受発注で行っている。 ・2017年に茨城県で給食の牛乳の風味差異が発生。毎年6月に児童に対し牛乳の風味について指導。牛乳の味は毎日違う、冬は脂肪分が高く甘いなど、児童同士が話し合える場を設けている。	・HACCP義務化から3年経過して ・HACCP義務化後の小規模事業者の状況と過去の事例 ・供給事業者は、衛生管理の評価チェックリストを作成し、事業実施主体へ提出	1 令和6年度及び令和7年度事業内容の説明 2 入札時期の見直し 3 牛乳の異常に関する対応マニュアル作成 (既存のマニュアルの確認(担当者・連絡先の変更等)) 4 配送費・人件費・工場電気代等のコスト上昇への対応 (令和7年度に栃木県であった内容を検討し、パンフレットを作成)	・令和5年度学校給食用牛乳供給事業の実績概要について、インフルエンザの流行による学級閉鎖等が例年以上に多かった。 ・牛乳の消費拡大のためには300mlの供給を増やしていきたいが、300mlの供給は年々減少。瓶牛乳の需要も減少。 ・配送関係は、物流2024問題の影響が懸念される。すでにこの1～2年、請け負う配送業者を探すのが困難となっている。	・近年の学校給食用牛乳の供給に対する懸案事項について、供給価格の上昇や配送問題、児童生徒数の減少による供給減、食の安心安全などがあることを説明した。 ・学乳等の製造工場を見学し、県内に供給されている製品、原乳の受け入れから製品が製造されるまでの工程を現地視察した。
(7)成果	・事業内容について、共通認識が図られた。 ・学乳の維持・拡大について、関係者の理解認識が図られ、協力体制が得られた。	・品質管理における記録の重要性と信頼性について、共通認識が図られた。	1 事業状況の確認 2 入札時期は現状どおりとする 3 牛乳異状の状況判断基準と連絡の確認 4 学校へコスト上昇と配送時間への協力をお願いするパンフレットの作成	・令和5年度の事業実績について、児童生徒数の減少により、供給本数は年々減少。 ・この数年、本県では食中毒はもちろん風味異常などの大きな問題は発生していない。今後も更なる衛生管理・事故発生防止に努め、安心安全な牛乳を供給していくとともに、牛乳の特性等についての周知・啓発の重要性について再確認した。	・保護者や学校関係者から、酪農家の窮状や生乳の余剰問題、牛乳の消費拡大への協力などについて理解が得られた。また、乳業者の課題として配送問題があることも知ってもらうことができた。 ・今後も衛生管理の徹底を図り、事故の未然防止に努めることを確認した。 ・牛乳製造工場を視察したので、製品がどのような状況で製造されて、出荷されるか確認できた。

都道府県名	埼玉県		千葉県		東京都
(1)会議等の名称	学校給食用牛乳供給推進会議	学校給食用牛乳の衛生管理基準に関する研修会	学校給食用牛乳供給推進会議	牛乳衛生講習会	①東京都学校給食用牛乳供給推進会議 ②、③東京学乳委員会
(2)日時	令和6年9月4日 14:00～	令和6年8月22日 14:00～	令和7年3月7日14:30～	令和6年11月7日13:15～	①令和6年6月27日14:00～15:20 ②令和6年11月21日13:55～16:25 ③令和7年3月5日13:55～15:45
(3)場所	埼玉教育会館	埼玉教育会館	千葉市生涯学習センター	オークラ千葉ホテル	乳業会館
(4)参加機関と人数	県畜産安全課、県食品安全課 県学校給食会、県生乳生産者団体 乳業者、県PTA連合会 県学校給食牛乳協議会 関東農政局 計20名	県食品安全課(講師) 乳業者 県学校給食牛乳協議会 計20名	県畜産課、県教育庁 乳業者 県乳業協同組合 県酪農農業協同組合連合会 県学校給食用牛乳供給事業 連絡協議会 計18名	県衛生指導課、県畜産課、県 教育庁、県学校給食会、乳業 者、県ミルクプラント協会、県酪 農農業協同組合連合会、県学 校給食用牛乳供給事業連絡協 議会 計30名	都教育庁 都学校給食会 牛乳供給事業者 東京学乳協議会 ①計31名、②計17名、③計19名。
(5)議題	・学校給食用牛乳供給推進事業 ・令和5年度学校給食用牛乳供給状況 ・令和6年度学校給食用牛乳供給及び 事業計画 ・緊急連絡体制 ・学校給食用牛乳の異味等	・乳・乳製品製造におけるHACCPに 沿った衛生管理	・令和6年度学校給食用牛乳 供給及び事業実績見込み ・令和7年度学校給食用牛乳 供給推進事業	・HACCPと衛生管理の基礎に ついて ・(一社)日本乳業協会からの情 報提供について	・令和5年度事業報告及び6年度の事 業計画について ・令和6年度実績及び令和7年度計画 ・給食費の保護者負担軽減について
(6)概要	・牛乳の風味についてパンフレットを作成。 ・学校給食用牛乳の予備を作り、何か あった場合に対応できるようにしている。 ・牛乳製造の経費が上がっていて厳しい。今後、低脂肪乳、加工乳(安価)に 流れることを懸念。 ・物流2024問題に苦慮、人手不足。	県食品安全課から講師を招き、乳・乳 製品製造におけるHACCP に沿った衛 生管理について、牛乳供給事業者で共 有。	上記議題について事務局より 説明。	上記議題について講師よりテキ ストに基づいて説明。	・降雪による牛乳供給の遅延、欠品に ついて、学乳供給事業者間で意見交 換 ・プラスチックストローの削減状況につ いて ・商品に瑕疵が判明し、販売できなくな った際の供給先への連絡方法につ いて ・学校給食用牛乳の放射性物質自主 検査を年5回実施しているが、年3回 程度に変更予定
(7)成果	・学校給食用牛乳供給事業の目的、必要 性並びに実施体制等の事業の流れ を周知。 ・学校給食用牛乳供給事業の実施 状況等について理解を深めた。 ・牛乳の風味変化や資材高騰等の課 題について関係者で共有。	・HACCPは企業側にとっても安全性 の向上、生産ロスの低減、証拠を残す などのメリットがあり、指導を行う行政 側も効果的かつ効率的な監視、企業 側とのディスカッション、食品の安全性 の向上といったメリットがあること等 について学ぶことができた。 ・HACCPシステムの運用状況を確認 することで、施設自らが再発防止を図 り、安全安心な製品を届けることが乳 業者の責務であることなどの意識向上 が図られた。	・令和6年度の事業実施状況 及び令和7年度の事業内容に ついて関係者間での情報の共 有が図られ、また現状把握が できた。	・制度から衛生管理にわたっ て、基礎的な部分からわかりや すい説明があった。 ・学乳の製造に係る衛生管理に ついて学ぶことができた。	・課題について関係者間で情報共有 できた。

都道府県名	神奈川県		山梨県	長野県	静岡県		
項目	神奈川県		山梨県	長野県	静岡県		
(1)会議等の名称	①～⑤一般社団法人神奈川県乳業協会学乳部会 ⑥神奈川県学校給食用牛乳協議会		山梨県学校給食用牛乳供給推進会議	長野県学校給食用牛乳推進協議会	静岡県学校給食用牛乳協議会	学校給食用牛乳供給工場の実態調査	
(2)日時	①令和6年7月8日 15:00～ ②令和6年8月14日 14:30～ ③令和6年9月12日 15:00～ ④令和6年11月12日 14:00～ ⑤令和7年3月21日 15:00～ ⑥令和7年3月21日 13:30～		令和6年12月17日15:30～	令和6年12月13日10:30～	①令和6年5月20日13:38～15:00 ②令和6年10月11日13:05～15:25 ③令和7年3月13日12:55～14:10	①令和6年11月26日9:50～11:30 ②令和6年11月28日10:00～12:05 ③令和7年12月3日13:30～15:30	
(3)場所	神奈川県畜産センター		山梨県立男女共同参画推進センター(びゅあ総合)	ウェストプラザ長野	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」	①静岡牛乳協同組合 ②8区地区コミュニティ防災センター ③フクロイ乳業株式会社	
(4)参加機関と人数	県畜産課、県保健体育課、県学校給食会、牛乳供給事業者 ①計11名、②計13名、③計12名、④計12名、⑤計11名、⑥計6名		県畜産課 県教育委員会 牛乳供給事業者 県学校給食会 計8名	県農産物マーケティング室 県教育委員会 牛乳供給事業者 県乳業協会 県牛乳普及協会 計17名	県畜産振興課、県教育委員会 県栄養士会、県学校給食会 県PTA連絡協議会、生産者団体 県牛乳協会 ①計11名、②計11名、③計10名	県学乳協議会 市町教育委員会 牛乳供給事業者 牛乳乳協会 ①計15名、②計14名、③計27名	
(5)議題	1 令和6年度学校給食用牛乳の供給進捗と課題 2 令和7年度学校給食用牛乳の供給推進 3 学校給食用牛乳受発注システムの構築		4 学校給食用牛乳のストロー 5 令和8年以降の学乳用供給体制	・令和6年度事業概要 ・令和7年度牛乳供給(予定) ・諸課題について	・酪農情勢 ・学校給食用牛乳事業 ・物流について	・令和5年度事業実績報告 ・令和6年度事業計画、進捗状況、実績 ・令和7年度事業計画 ・学校給食用牛乳に関する課題、ストロー、WEB受発注システム	・牛乳供給工場実態調査 ・令和6年度学校給食用牛乳供給事業
(6)概要	1 令和6年度2学期までの実績から推測すると、前年並みの実績となる。学校のシャッターが開かず牛乳を納入できず、別途配送した事案があった。 2 令和7年度の供給事業の見積徴収の確認及び国庫事業計画の概要説明。なお、国庫対象区域は令和5年と同様で、供給量もほぼ同じ。 3 受発注システムは、トラブルなく稼働。		4 環境負荷軽減の取り組みは、各社で充填機等の装備に差があり製造条件が異なることから、環境の動向を注視しながら進める。 5 令和8年度から供給事業者1社撤退に伴う区域及び該当市町村、供給数量等を確認しながら供給体制について検討。	・来年度、児童・生徒の減少により牛乳供給量約2%減少する見込み。 ・瓶割れについて、学期ごとに瓶を入れ替えるようになってから瓶割れがなくなったとの意見があった。 ・環境負荷低減について資料配布。	上記内容を協議。	・ある事業者が牛乳の製造を停止した際、別の事業者による代替で、支障なく供給できた。新年度に学乳緊急時の代替供給計画を作成予定。 ・ストローレスパックについては、牛乳パックの剥離剤の工夫や、機械の対応など、課題もあるが、ストロー1本0.23g～0.24gが4700万本で10t以上のプラスチックごみの削減ができる。ストローレスパック利用実現に向け努力していく方向。 ・現在、FAXや電話で牛乳の受発注を行っており、時間と手間がかかることから、学校からサーバーを通して業者に受発注するシステムを導入したい。令和8年4月のシステム本稼働を目標に動いている。	・牛乳供給工場の実態調査、意見交換を実施。
(7)成果	1 令和6年度は計画通りの実績が見込まれ、供給上大きなトラブルも無く順調に推移。学乳納入トラブルについて、貨物自動車運送事業法改正への対応や配送効率の観点、別途配送費の加算などの問題もあり、県学校給食会から各市町村へ喚起する。 2 新年度も供給数量についての大きな変動なく取り組む。		3学乳受発注システムを導入し、受発注業務のミスがなくなり、事務時間が短縮され経費削減も図られた。 4 情報収集しながら学乳プラスチック対策を行う。 5 引き受けを予定する区域・市町村について、配送業者等を含めて、現供給事業者と引き受け予定事業者との間で調整しながら、円滑な供給体制を図る。	・関係者間で情報の共有を図ることができた。 ・諸課題について意見交換ができた。 ・環境負荷低減について参加者が再認識することができた。	・資材や人件費、光熱費の上昇で製品コストが増加するため、学乳価格改定に関わる対応を依頼。 ・配送コスト削減に向けた各メーカー対応について情報交換。	・学校給食用牛乳の課題、学乳のプラスチックごみ削減への取り組みについて、関係機関に働きかけることにより、学校給食用牛乳に対し理解を深めることができた。	・学乳実施校へ衛生的かつ安定的に牛乳が供給されていることを工場調査参加者が確認。